



発行 財団法人広島市文化財団 広島城
F A X 電話 730-0011 広島市中区基町21番1号
開館時間 9:00~17:30(4月~9月)
9:00~16:30(10月~3月)
発行日 平成17年2月17日

財団法人広島市文化財団 広島城
〒730-0011 広島市中区基町21番1号
082-2221-7512
082-2221-7519
9:00~17:30(4月~9月)
9:00~16:30(10月~3月)
平成17年2月17日

企画 武家の古文書

くずし字の中に見る広島市の歴史群像

2月12日(土)~3月13日(日)

毛利元就、毛利輝元、福島正則、浅野長政、豊臣秀吉…
君も知っている歴史上の人物の古文書が大集合!

今回は広島市域に残された武将の古文書を紹介し、あわせて鎌倉時代から江戸時代の広島市の歴史について探っていきます。広島市の歴史に登場する人物達のいぶきが、きくと感じられるはずです。

あなたの古文書度をチェック!

Q1 どちらが初代広島城主、毛利輝元のサイン?

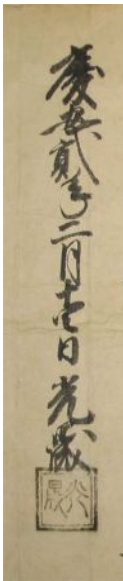


★ヒント

武将の多くは、自分が手紙・証文を差し出した出したことが分かるよう、花押というサインをしたためていました。花押は一人一人ちがうものを使っていました。



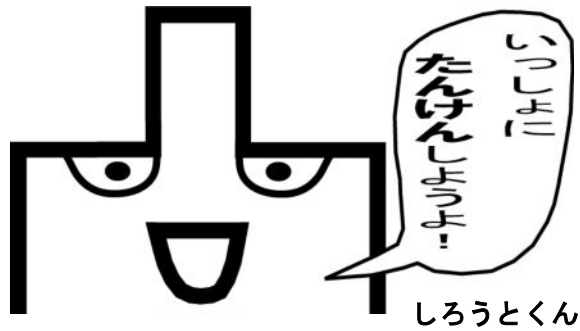
Q2 二つとも広島藩主浅野氏が家臣に差し出した古文書の一部。どちらが古い?



★ヒント 浅野氏の場合、初めは名前を署名した上にハンコを押していました。後にはハンコだけになりました。

★答えは裏にあります★展示してある他の古文書もみてきてね!

「広島城跡」には、天守閣以外に江戸時代以前の石垣や復元された建物、近代の軍事施設などがあるのを知っているかい? 知っている人も、じっくり見て、探索したいことはあるかい? 実は、3月27日の午後に、小学校5年生~中学生を対象に、「これらを見て回る機会があるぞうだ。参加者は広島城のなぞについて、いろいろと教えてもらえるだけでなく、自ら歴史を探ることもできるぞうだ。知っているようで知らなかった広島城を知ってお友達に自慢してみよう!ぜひ来てね。」



春休みスペシャル

たんけん! 広島城

実施日: 平成17年3月27日(日)
1時から3時半まで
(雨天の場合は中止)

参加費: 300円(テキスト代、保険代)

申し込み: 必ず往復はかきでの事前申し込みが必要です。
①住所、②氏名、③電話番号、④学校名、⑤学年、を書いて3月17日(木)に届くように広島城(〒730-0011 広島市中区基町21-1)までお送り下さい。
定員: 20人
応募者多数の場合は抽選します。

教えて! 広島城はかせ! ②



どのくらい大きい
大きかったの?

みんなお城というと、高くそびえる天守閣(左の写真)を思い浮かべるんじゃないかな。でも天守閣は城のほんの一部分にすぎないのじゃよ。

今「広島城跡」として残されているのは、内堀とそれに囲まれた本丸・二の丸と呼ばれる所だけで、広さにすれば約12万㎡。天守閣もこの中に建っている。しかし、江戸時代の広島城の広さは約90万㎡もあってな、広島市民球場が約40コ入る大きさだったんじゃない。そして、内堀のまわりにはさらに中堀・外堀と全部で3つの堀が回らされていたんだぞ。驚いたか! 天守閣から見て西側の広島市営基町高層アパート、南側の県庁や市民病院、市民球場、基町クレド、広島そごう、バスセンターなどが建っている所は、江戸時代にはお城だったところなんじゃよ。

そんな広い土地の中には何があったのか? まず、天守閣のすぐ下には「本丸御殿」とよばれる広い建物があった。ここで殿様が普段生活しておったんじゃないが、それだけでなく家臣たちが集まって政治を行う場所でもあったんじゃないよ。

この本丸御殿を中心にして、お城の中には殿様のための屋敷や、身分が高い侍の屋敷、役所、蔵などの建物が建ち並び、馬を飼う馬屋や、乗馬の練習をする馬場、それから稲荷神社などもあったんじゃないよ。



広島城の木々あれこれ

こし手
歴史の耳
③

このコーナー、ひろしま歴史の小耳も三回目。今回はちょっと目先を変えて、広島城の“植物”についてのお話を少し・・・。

今年、広島は被爆60周年を迎えます。一発の原子爆弾により市内は壊滅的な打撃を受けました。もちろん爆心地から約1kmしか離れていない広島城も例外ではありません。城内にあった全てのものが大きな被害を受けました。

しかし、広島城跡内には、原爆を乗り越えて生き続ける3本の被爆樹木があります。そのうちの1本である“ユーカリの木”をご紹介します。しよう。

二の丸には“ふにゃっと”した見慣れない木があります。実はこの木がユーカリの木です。ユーカリというと、コアラのえさということで有名ですが、最近では、アロマオイルや紙の原料としても注目を浴びています。



二の丸のユーカリ

もともとこのユーカリ、オーストラリアの木で、日本には明治10年(一八七七)ごろにやってきた植物といわれています。という事は、江戸時代にはなかった木です。大正時代には「ユーカリの木は空気をきれいにする」という理由で全国的に植えられたことがあったようですが、いつどのような理由でこの木が広島城に植えられたのかは定かではありません。

もうすぐ春。春は桜。広島城にもたくさんの桜があり、お花見をする人々にぎわいます。お城に桜のイメージを持つ人も多いかもしれませんが、今ある広島城の桜はすべて第二次世界大戦後に植えられたものです。

では、江戸時代の広島城はどのような様子だったのでしょうか？城内はきれいに整備されていたようですが、どのような木があったか？について詳しくは分かっていません。

ただ、少なくとも江戸時代の末期においては、城主が住んでいるお城が外から丸見えにならない

いよう、城の堀ぎわに背が高くなり一年中葉がある杉や松などの針葉樹を植えていたようです。さらに、背が高くなった針葉樹の下側には枝葉がなくなるので、この部分を覆い隠すために背の低い雑木を植えていたと考えられます。このことは、大正時代に撮影された写真にも見ることが出来ます。

杉に囲まれた広島城。もしかしたら、お殿様も花粉症でなやんでいた！？かも??



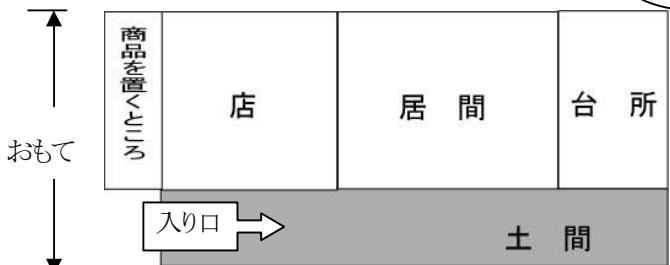
天守閣の下の切り株

ちなみに、天守閣の下に切り株があるので、どうやらこの切り株、お城を覆い隠していた木のなごりのようです。

このほかにも、今では見かけることが少なくなった珍しいタンポポがあったり、秋にはたくさんのもんぐりが落ちていたり、植物だけとありあけてもふしぎな魅力いっぱい広島城。むかしの城内に思いをはせながら、いまの植物たちを楽しんでみませんか。

お店の「おもて」はどこ!?

展示室で見つけたよ!①



今回はこれ!

一層の展示室にある商家の復元模型。お店の部分と家族が暮らす居間・台所の部分をご覧くださいませ。なんだか横に広がったうすっぺらい家に見えるんですが、この家の「おもて」(正面)はどこなのでしょう? ヒントはこの家は本当は実はとても「奥の深い」細長いつくりとなっていること。というわけで、向かって左奥(東側)のせま〜いところがおもてなんです。

実は、江戸時代は、家のおもての広さに応じて税金がかかりました。ですから、人々はおもてはなるべく狭くし、奥に長く部屋を作ったのです。家の奥には土間を通って行きました。

古文書度チェックの答え

Q1...① ②は徳川家康

Q2...② ②には藩主の名前「光辰」の署名があります